

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 伊勢工業高等学校 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		・ 地元企業の人材育成を軸に、一人ひとりが望む進路の完全保障を実現する工業高校
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 基本的な生活習慣を身につけ、社会常識のある明るく素直な生徒の育成(ひとづくり) ○ 産業界から求められる技術・技能習得の意欲あふれる生徒の育成(ものづくり)
	ありたい 教職員像	○ 学校教育目標の達成に向けて、教職員が教育活動の実践や改善のために、相互に共同し切磋琢磨する関係性(同僚性)を保ちつつ、失敗を恐れずに前向きにチャレンジし続ける教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p>〈生徒〉 生徒の進路希望は、就職が8割、進学が2割を希望している。また、部活動への取り組みにおいても意欲的である。</p> <p>〈保護者〉 保護者は、地元企業への就職を希望している。</p> <p>〈地域〉 元気で素直な伊勢工業高校の生徒に期待をしており、地元企業から地域貢献の声をいただいている。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p>〈家庭〉 日常の子どもの様子を知らせてほしい。</p> <p>〈中学校〉 学校の様子、卒業生の近況報告、入試状況を知らせてほしい。</p> <p>〈地域社会〉 地域の活性化のため、地域行事や防災面で施設や生徒の協力をお願いしたい。</p>	<p>〈家庭〉 本校教育方針への理解と協力をお願いしたい。</p> <p>〈中学校〉 継続的な指導が必要な個々の生徒の情報共有をお願いしたい。</p> <p>〈地域社会〉 本校の教育活動を理解し、本校生徒の活躍を見てほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○ 出前授業やイベントへの参加は、地域への工業高校のイメージ、専門高校への興味などを喚起し、工業高校に対する理解に大きな役割を果たしている。また、学校の外へ出て、社会と触れあうことによって、生徒のコミュニケーション能力等、社会に出るにあたって必要な力が育まれる。今後も継続し、広報活動につなげてほしい。</p> <p>○ 生徒の進路状況はすばらしいものがある。今後も求人活動や進学指導を計画的に行い、景気に左右されない、社会のニーズに応えることのできる人材育成を行い、希望する進路実現に向け、さらに力を注いでほしい。</p> <p>○ 職員の過重労働、時間管理について、快適な職場作りについての具体的な対策が必要。また、ストレスが多い中、心のケアなど労働安全衛生の向上に努めてもらいたい。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<p>〈現状〉在学中に様々な資格取得を目指し、卒業後は地元企業へ就職する生徒が多いことから、生徒・保護者・地域のニーズには合致している。</p> <p>〈課題〉企業が求める人材は、現在より一段高いところ（異世代間でも適応できるコミュニケーション能力、基礎的な学力の確実な習得、より高度な資格取得等）にあり、そのニーズに応えていく必要がある。</p>	

学校 運営等	<p>&lt;現状&gt;本校の教育活動を理解してもらうため、小学校への出前授業や地域のイベント等に積極的に参加しており、地域からは一定の評価をいただいている。地域も非常に協力的である。</p> <p>&lt;課題&gt;活発な部活動に加え、地域からの期待や要望に応えようとするあまり、土日のイベント参加も多くなり、教職員も子どもたちも疲れてきており健康管理が心配である。参加するイベントの精選・工夫や日常業務の改善による総勤務時間の縮減を積極的に行い、教職員や子どもたちの加重負担を減らしていく必要がある。</p>
-----------	--

### 3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図る。</li> <li>・基本的な生活習慣を身につけた、社会常識のある明るく素直な生徒の育成を目指し、身だしなみを整えること・挨拶励行の取り組みをより一層推進する。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深める。</li> <li>・第1希望の進路が獲得できてこそ、活気ある工業高校が実現できます。基礎学力向上に向けた取り組みの充実と表現力・コミュニケーション能力の育成に取り組む。</li> <li>・教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努める。</li> </ul>

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
教科指導	<p><u>分かりやすく、きめ細かい授業を展開するとともに、学校生活全般を通して基礎・基本の学力および産業人としての専門的な能力の定着を図ります。</u></p> <p><u>「高志」ある生徒が、卒業時に取得すべき資格等を明確にして、取得するための体制づくりに取り組み、成果を上げます。</u></p> <p>(1)1年生から計画的、段階的に取得技術の高度化を図るとともに、実用に即した資格取得に重点をおいて、補習授業等も行いながら教育実践に努めます。</p> <p>(2)実習・課題研究や製図の取り組みの中で、技術技能の向上並びに表現能力に長けた生徒の育成を進めます。</p> <p>【活動指標】</p> <p>(ア) ものづくり大会の参加 ・ ものづくり東海大会へ出場</p> <p>(イ) 技能検定3級程度の技能練習</p> <p>(ウ) 建築設計競技会の参加</p> <p>【成果指標】</p> <p>* 資格取得【別表】参照</p>	<p>(1)(2)各科の特色に応じた資格取得が行われ、概ね達成されました。</p> <p>○機械科</p> <p>ものづくり東海大会へ出場(県2位)</p> <p>2級ボイラー技士4名合格(80%の合格率)</p> <p>技能検定(テクニカルイラストレーション・手書き)</p> <p>にも新たに挑戦</p> <p>○電気科</p> <p>ものづくり県大会(電気工事部門)2位</p> <p>東海大会出場</p> <p>3級電子機器組立技能士24人合格</p> <p>○建築科</p> <p>日本大学主催建築設計競技 優秀賞</p> <p>建築甲子園 県大会準優勝</p> <p>愛知産業大学主催建築コンクール優秀賞</p> <p>建築協会主催建築デザインコンクール優秀賞</p> <p>福山大学主催設計コンペ優秀賞</p> <p>日本工業大学主催設競技奨励賞</p> <p>産業教育振興会主催作文コンテスト工業部会長賞</p> <p>建築CAD検定試験優秀団体賞2年生D組(40名)</p> <p>本年度より2年生全員がQC検定(品質管理検定)を受験する。試験日:H30年3月</p> <p>県立みえこどもの城子どもの椅子プロジェクト第2弾参加:H30年1月27日(土)</p>	

	<p>(3)図書館の取組として、生徒の「生きる力」を育むため、各教科・各分掌との連携のもと、生徒の世界を広げる読書案内・学習活動につながる教育支援の充実に努めます。</p> <p><b>【成果指標】</b> 生徒1人当たり貸出冊数 5冊以上</p>	<p>(3)1月末現在、生徒1人あたり貸出冊数5.0冊で、目標を達成(27年度4.8冊、28年度4.7冊)</p> <p>本校図書館を会場に、高校生ビブリオバトル南勢志摩地域大会を開催し、生徒がバトラー(発表者)と運営で参加した結果、バトラー1人が地域代表に選出され、聴衆6人(生徒3人、教職員2人、保護者1人)とともに、県大会に出場しました。</p>
<p>生徒指導</p>	<p><u>基本的な生活習慣を身につけた、社会常識のある明るく素直な生徒の育成を目指し、身だしなみを整えること・挨拶励行の取り組みをより一層推進します。</u></p> <p>(1)挨拶の励行や時間の尊重、身だしなみや礼儀作法に気を配り、ルールを遵守するなど、生活規範を身につけた生徒を育てます。</p> <p><b>【活動指標】</b> (ア) 全教員による登下校校門指導と校内巡視(毎日)、挨拶の励行 100%</p> <p>(イ) 駅前・町内巡視の実施 (ウ) 5分前精神の徹底(時間を守る・遅刻しない) (エ) 授業に集中させるために入室許可証の発行実施 (オ) 頭髪服装指導(通年)・身だしなみ講座(4月)の実施</p> <p><b>【成果指標】</b> (ア) 挨拶の励行 100%</p> <p>(2)日々の授業や学校行事等、教育実践全般を通じて継続的モラル教育を実践します。</p> <p><b>【成果指標】</b> (ア) 遅刻・早退・欠席指導の継続(前年度の 25%減) (イ) 校則違反等による特別指導件数の減少(10件以下に減)</p> <p>(3)工業高校生としての連帯感を高め、良好な人間関係の構築に努めます。</p> <p><b>【活動指標】</b> (ア) 新入生研修の実施(4月) (イ) 各科や各学年を通じた指導 (ウ) 部活動での人間関係の育成 (エ) 生徒個別面談(年間2回)や学校生活等に関するアンケート(各学期)の実施などによる、いじめの防止、早期の把握・解消</p>	<p>1月末比較(過去5年間)</p> <p><b>遅刻(延べ人数・増減)</b> H25・ H26・ H27・ H28・ H29 576・ 548・ 382・ 400・ 319 ▲5%▲30% 5% ▲20%</p> <p>・ここ数年間登校時間厳守の意識が定着してきており、遅刻数は少ない状況となっている。</p> <p>・6・11・2月の遅刻防止月間をH26より導入し定着してきた成果でもあり、今後も続けていきたい。</p> <p><b>早退(延べ人数・増減)</b> H25・ H26・ H27・ H28・ H29 139・ 169・ 133・ 255・ 228 22% ▲21% 91% ▲11%</p> <p>・今年度は1月のインフルエンザの大流行により、一気に早退が増加した。</p> <p><b>頭髪指導(延べ人数・増減)</b> H25・ H26・ H27・ H28・ H29 858・ 481・ 249・ 213・ 299 ▲44%▲48%▲15% 40%</p> <p>・生徒指導部だけではなく、学年団や科の取り組み(事前指導や不合格者への指導等)により、不合格者は少ない状況である。</p> <p>・例年は、1年生は4月に非常に多く、5月から激減するが、今年度は5月まで多い状況であったため、人数的に昨年度より多数となった。</p> <p><b>特別指導謹慎等(延べ人数・増減)</b> H25・ H26・ H27・ H28・ H29 26・ 44・ 42・ 13・ 25 69% ▲5%▲69% 92%</p>

	<p>(4)学校の様子を積極的に保護者に発信し、生徒・保護者との意志疎通に努め、生徒指導の意義や目的への理解を高めます。(保護者や学校関係者以外の意見、HR活動や個別懇談の状況把握等の実施)</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(ア) 保護者会やPTA諸会合での説明</p> <p>(イ) 学年懇談会での話し合い</p> <p>(ウ) 生徒個別面談を年間 2 回実施、学校生活等に関するアンケートを各学期に実施</p>	<p>・全体的に目に見える悪質な犯罪非行行為は減少傾向にあり、これは高校生全般に言える状況です。しかし今年度は無届アルバイトと集団での問題行動が発覚し、特別指導人数が大幅に増加した。また、近年問題視されている、SNSトラブルやいじめ問題はかなり頻繁に起こっている状況で、本校でも重大事象になりかけた事案も発生した。</p>
--	---	---

<p>進路指導</p>	<p><u>第 1 希望の進路が獲得できてこそ、活気ある工業高校が実現できます。基礎学力向上に向けた取り組みの充実と、面接が「自分の人となりの魅力を伝える」場となるよう表現力・コミュニケーション能力の育成に取り組みます。</u></p> <p>(1)キャリア教育を推進して、生徒・保護者の希望に合った進路実現をめざします。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(ア) 県内外への企業訪問をさらに拡充し、求人企業数・求人数・内定者数の向上に取り組みます。</p> <p>(イ) 基礎基本の学力向上のための取り組みについて、継続的に実施・協議・検討を行います。</p> <p>(ウ) 表現力・コミュニケーション能力向上のため、全職員及び外部講師を活用し「面接指導」、「みだしなみ講座」等を実施・充実させます。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(ア) キャリア教育を推進して、正しい職業観・勤労観を身に着けさせ、主体的に進路選択進路決定できる生徒を育て、生徒のニーズに応じた望ましい就職・進学先の決定につなげます。</p> <p>(イ) 一次試験合格率、就職90%以上・進学100%を目指します。</p>	<p>・1・2年次では、英語・数学・国語、2年次後半からは、各種就職試験に対する取り組みを実施し、学習習慣の確立を図るとともに、確認テストを実施することで、学力の定着を図りました。また、基礎力診断テストを年2回にし、基礎学力をさらに定着させ、自分の学力を客観的に把握することで進路決定に役立てるとともに、学習の成果から新たな目標を持たせることを図りました。</p> <p>・学校斡旋の就職内定率は100%(1月末現在)。今年度の求人は、県内277社442名、県外161社221名、合計438社663名となり、求人倍率は4.95倍と昨年度を上回りました。</p> <p>県内外の求人数が昨年度同様、好調で企業懇談会にも積極的に参加し、求人を求めた結果であると思われます。</p> <p>・進学については四年制大学18名、短期大学4名、専門学校28名、合計50名が合格しました。</p>
-------------	---	---

### 改善課題

○各科で取得すべき資格を行動計画に示し、資格取得に取り組みました。しかし、合格に向けては、放課後や土日の補習が欠かせません。放課後等の補習については、年間計画を立て、部活動との両立を検討することが必要です。

○頭髪服装指導は、しつけ重視ということで、身だしなみの大切さを意識づけさせるため厳格に行っています。ほぼ毎回、頭髪指導日の直前に各HRで事前予告注意を行うことにより、生徒全体の意識や教員全体の指導意識も上がり、成果をあげられたと考えます。

○遅刻については、日常の指導に加え、6・11・2月の遅刻防止強化月間の取り組みが浸透し、かなり少なくなってきました。その一方で、授業準備の不備や授業中のトイレなどで、授業に遅れたり、授業途中での一時退出が多くなっています。1年時より授業、学校の重要さをより一層指導していく必要性を感じます。生徒全体の意識や教員全体の指導意識を高めることが必要であると考えられます。

○校内での携帯電話使用の禁止は、回数により預かり期間が延びるにもかかわらず、相変わらず多い状況です。依存傾向の生徒が多くなっている現状から、より効果的な方策を考える必要があります。

○特別指導は、集団での問題行動や、無届アルバイトが多く発覚したことから、今年度はかなり増加しました。また、SNSトラブルやいじめ事象も増加傾向にあるように感じます。より一層の教職員による生徒のみまもりの必要性を感じます。授業や集会、特別活動の中で生徒の規範意識や自尊感情（自分を大切に思う心）を、高められるように、学力の向上や人間性の向上に取り組ませる必要があります。

○本校の生徒の乱れ具合のバロメーターである外部からの苦情がかなり減少してきました。登下校時の全教員による巡視やあいさつ運動に加え、苦情の際に、速やかに巡回指導を行うなどしたことが大きな要因であると考えます。さらに地域に好印象を与えられるような指導をしていきたいと考えます。

○今年度入学生から新学生服採用となりました。これに合わせて、在校生の服装指導も学年団の協力もあり若干厳しくなった部分もあります。制服移行が完了するこの期間が今後の指導につながるターニングポイントとなります。より一層、生徒指導に関わる取り組みを重要と考え、全教職員への協力体制を働きかけ、一貫した指導体制が構築できればと考えます。

○2日間にわたり新入生研修を実施しました。宿泊を伴わない校内での研修は3年目で、研修内容を毎年改善していく必要があります。

○学校斡旋を希望する生徒は132名で100%内定しています。なお一次試験は124名が受験。内定率は91.9%で、昨年度より4.4%の増となり、飛躍的に向上しました。

○本年度は進学希望者が多く、オープンキャンパス等への積極的な参加を勧め、強い進学意識を持たせるとともに、卒業後の進路についてもしっかり考えさせることにより、志望する学校等の理解を深め、合格に繋げることが出来ました。

○学習教材や各種テスト等の活用により、少しずつではありますが学力向上に繋がっています。その結果、入学試験や就職試験の一次試験の成績が向上し、合格率・内定率が安定してきました。しかし、基本的なコミュニケーション能力が乏しい等、高校入学時から特別支援的なサポートが必要ではないかと思われるケースが増加しています。

○基礎学力が低く、多くの資格は取得しているがそれぞれの資格合格者数は他校よりも少ない状況です。

## 【別表】

	資格、検定	機械科	電気科	建築科
資格取得 合格者数の 目標値	危険物取扱者丙種	1年生 40人 29年度受検者なし	1年生 75/79人	3/0人
	危険物乙種4類	2・3年生40人 39人合格 1類27人、2類17人 3類12人、5類14人 6類25人	74/40人	2・3年生 3/3人
	ガス溶接技能講習	2年生79/79人 全員合格		8/0人
	基礎製図検定	2年生・45/60人		
	機械製図検定	3年生・24人/50人		
	技能検定旋盤（2級/3級）	2級2人・3級5人 2級受検なし 3級7名合格		
	機械保全技能士（機械検査）3級	18人/5人		
	2級ボイラー技士	4人/10人		
	技能士テクニカルイラストレー ション・手書き	29年度導入 3名		
	電気工事士2種		2年生49/50人	1/0人
	電気工事士1種		2・3年生9/10人	
	電気主任技術者3種		3年生 0/3人	
	第二級陸上特殊無線技士		2・3年9/10人	
	第二級海上特殊無線技士		2・3年1/10人	
	福祉住環境コーディネーター3 級			全学年 4/5人
	2級建築施工管理技術検定試験			3年生 4/3人
	カラーコーディネーター3級			全学年16/8人
	建築CAD検定2～4級			73/70人 2年生4級40人 3年生3級33人
	レタリング検定3、4級			全学年 41/40人 1年生4級37人 2年生3級4人
	建設業経理事務士4級			2・3年生 44/10人

合格人数/目標人数

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	<p><u>教職員間の対話の促進と、執務環境の改善や総勤務時間の縮減など職員の労働安全衛生の向上に努めます。</u></p> <p>(1)教職員が意欲的に業務に取り組み充実感を得ることができるよう、組織の在り方や業務内容の見直し、過重労働の削減などにつながる快適な職場作りに取り組みます。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>(ア) 会議時間を短縮し60分以内に終了します。</p> <p>(イ) 定時退校日を月1日設定します。</p> <p>(ウ) 部活動休養日を週1日設定します。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>(ア) 放課後に実施し60分以内に終了できなかった会議数 10以内</p> <p>(イ) 定時退校日に定時退校できなかった教職員数 10人以内</p> <p>(ウ) 部活動休養日を設定した部活動数 100%</p> <p>(エ) 1人あたりの月平均時間外労働時間 昨年度比 15%減</p> <p>年間休暇取得日数 昨年度比 1日増。</p> <p>(オ) 職員満足度調査を実施し実態を把握すると共に、働きやすい職場への改善につなげます。</p> <p>(2)分掌、学年団のブロックを活用するなどし、更に対話を促進します。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>職員室の席配置を学年団のブロックで配置し、日常の対話を促進します。</p>	<p>(1)</p> <p>(ア)60分以内に終了できなかった会議数 4 (7月～1月)</p> <p>(イ)定時退校日に退校できなかった教職員数</p> <p>毎月定時退校日を1日設定し、その日に退校できなかった人数</p> <p>7月28日 10人</p> <p>8月15日 0人</p> <p>9月8日 13人</p> <p>10月18日 0人</p> <p>11月24日 0人</p> <p>12月6日 4人</p> <p>1月9日 4人</p> <p>(ウ)各部において週に1日以上休養日を設定</p> <p>設定できなかった部活動の延べ数</p> <p>7月期(4週) 14</p> <p>8月期(5週) 19</p> <p>9月期(4週) 10</p> <p>10月期(5週) 12</p> <p>11月期(4週) 15</p> <p>12月期(4週) 5</p> <p>1月期(4週) 10</p> <p>(エ)</p> <p>×時間外 3%減</p> <p>×休暇取得+0.6日</p> <p>(いずれも1月末)</p> <p>(2) 職員室に配置された学年団のブロックにより各科の縦の情報共有とともに、学年としての横の情報共有が進んでいます。</p> <p>○各科、各部、各学年での取り組みの全体での情報共有が進みました。</p>	

<p>地域との連携</p>	<p><u>南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を高めるため、地域との連携を深めます。</u></p> <p>(1)地域関係者(小中学校、学習塾、地元自治会、関係機関)との連携強化に向けて、各種行事やイベントに積極的に参加します。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>小学校出前授業の実施、学習塾説明会の開催、七夕大そうじへの参加など</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>参加者のアンケート、感想から、南勢地区唯一の工業高校としての存在意義を確認し、改善につなげます。</p> <p>(2)地元企業との連携強化に向けて、双方向からの情報発信・相互理解を深めるための行事を実施します。</p> <p><b>【活動指標】</b></p> <p>地域における就職促進につながるよう、地元企業の高校内企業説明会を実施します。</p> <p><b>【成果指標】</b></p> <p>地元企業の実態等の把握を含め、職業意識形成支援につなげます。</p>	<p>(1)地域のイベントである七夕大そうじ(7/2)へ参加予定で計画しましたが、テスト期間と重なり、本年度はPTAのみの参加となりました。</p> <p>・作年度よりはじまった地域の清掃活動「ごみゼロウォーク」に生徒会から参加者を募り、各クラブを中心に参加予定だったが、雨天のため中止となりました。</p> <p>・小学校4校(宮山小、北浜小、厚生小、佐八小)への出前授業を実施(6/29、6/30)</p> <p>・学習塾対象の説明会を開催。</p> <p>(2)1. 2学年対象に地元企業の説明会を7月に実施。3月にも1, 2学年対象の地元企業説明会を予定。</p>
---------------	--	--

改善課題

- 個人の負担軽減を考え、組織的な業務の運営を検討します。更に対話を深め、学校の教育課題を議論しながら学校教育目標の達成に向け活動していきます。特に総勤務時間の縮減に向け、働き方改革として一層の業務の効率化と行事等の精選を図っていきます。
- 職員の加重労働、時間管理についてさらに具体的な対策を検討していく必要があります。
- イベントへの参加が一部の教員・生徒だけで、地域関係者との連携を強化するためにも学校全体でイベントに参加する必要があります。
- 来年度以降も地域関係者との連携を強化するために各種イベント等に積極的に参加していく必要があります。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>○工業高校のPRとして出前授業や各種イベントへの参加は大いに役割を果たしている。ただ、教員の負担も大きいのではないかと。公開授業において実習の授業などにおいて少人数できめ細かく指導していることなどをアピールするなど、負担も少なくPRできる方法を考えることも必要である。</p> <p>○働き方改革が言われる中で、先生方の時間管理、過重労働対策が今後必要になる。</p> <p>○コミュニケーション能力の育成が求められているが、特に社会において必要とされるコミュニケーション能力をつけるためには指導に時間と手間がかかると思われる。先生や先輩とのコミュニケーションが大切である、</p> <p>○クラス減となるなかで、進路先の割り振り、企業への対応が難しくなるのではないかと。生徒の進路希望を叶えるため、より丁寧な進路指導が必要になる。</p> <p>○伊勢工業高校が地域に根付いていくためには、生徒一人ひとりが、伊勢工業高校の生徒として地域に認められることが大切である。そのために、身だしなみ、けじめ等、なぜその必要があるのかも含めて指導していかなければならない。</p>
----------------------------	--

## 6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・資格取得のために部活動との両立を図りながら、放課後の補習などを継続して行っていきます。また、資格取得のための勉強を個人でも行うことができるような環境作りを進めます。</li><li>・工業科の標準テストを取り入れるなど、県内での本校工業科の位置付けを把握します。</li><li>・基礎学力向上のために興味を持たせるような授業を継続して行っていくと共に、就業体験(インターンシップなど)を行うことにより、学習意欲向上のための動機付けを行います。</li></ul>
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none"><li>・会議の精選を一層進め、デスクネット等の媒体を活用することで、会議の時間、回数を減らすようにします。</li><li>・インターンシップや企業訪問等、来てもらうだけでなく、こちらから出向いての地元企業を知る機会を増やすとともに、在校生と卒業生の懇談会、特別授業など地元企業の方に本校にきてもらう機会をさらに増やし、本校をより深く理解していただき、地元企業との連携を深めるための取り組みを行います。</li></ul>